

電力技術研究会 情報交換会(横断的専門部会)の開催 ~マイクログリッドに関して~(3月28日開催)

電力技術研究会では、既存の専門部会の枠を越えた横断的な取り組みとして、情報交換会を中電ビルにて開催いたしました。

第1回のテーマとして取り上げた、「マイクログリッド」とは、複数の分散型電源や蓄電池などを効率よく組合せて、特定の地域に、電力・熱のエネルギーを供給するシステムのことです。発電にともなう排熱利用や太陽光発電などの利用促進を促すシステムとして関心の高いテーマです。

特に、当社管内においては、愛知万博後、中部臨空都市(常滑市)で、太陽光や生ごみなどの発酵ガスとの組合せによる燃料電池など、自然エネルギーを利用した供給システムに関する実証試験を行っており、試験データをもとにした、系統電力への影響についての情報交換なども視野に入れて、テーマの選定をしました。

情報交換会は、社外委員の石田教授(三重大)、鈴置教授(名大)の研究報告の他、当社からは、「(独)新エネルギー・環境技術総合開発機構(NEDO)」が国内3箇所で実証研究中の「新エネルギー等地域集中実証試験研究」の紹介を行い、技術面や経済性の課題など多方面に渡った活発な議論がなされました。今回の有用な意見交換を更に発展させるべく、次回も同テーマでの開催を予定しております。

出席者：大熊、鈴置(名大教授)、鶴飼(名工大教授)、石田(三重大教授)、一柳、植田(愛工大教授)他
竹内(系統運用部G長)、永田(配電部G長)、高木(工務部G長)、中村(法人営業部販売部長)、牧野(電子通信部課長)他

名古屋大学寄附講座「エネルギーシステム(中部電力)寄附研究部門」の成果報告会(3月30日開催)

名古屋大学寄附講座「エネルギーシステム寄附研究部門」は、平成8年に当社の寄附により名古屋大学に設置されたもので、現在は第3期(平成16年4月~平成20年3月)となりました。

本研究部門では、「エネルギーと環境問題」をテーマに、将来の「環境調和型次世代電力システム」について、学術的な知見を得ると共に、「大学教育による高度な専門的能力を持つ創造的な人材」の育成にも精力的に取り組んでおられます(第1表、第1図)。

第1表 寄附研究部門の活動

No.	活動
1	最適な電気エネルギーシステムの構築
2	環境適応型次世代電力機器基礎技術開発
3	環境低負荷型電力用新材料の開発
4	超電導電力技術開発
5	新技術適用の社会的合意形成



第1図 寄附研究部門の体制

今回の成果報告会は、平成18年度の活動報告を中心に、中電ビルにて、名古屋大学および当社関係者を集めて実施されました(第2図)。

活動報告では新しい試みとして、一般の方に電気・エネルギーについて理解を深めていただくことを目的とした「市民公開講座」の開設が紹介されました。

この「市民公開講座」は、既に2回の開催実績があり、普段は大学で難しい講義をされている先生方から、専門的な内容を分かり易く教えていただけるとあって、次回テーマへの要望が参加者から出されるほどの好評を博し、盛況であったとの報告がされました。

また、IT融合型最適電力システム(IGMS)の基礎研究をはじめとする各研究の中間進捗状況の他、国際大電力システム会議(CIGRE)最優秀日本論文賞受賞など、数々の成果を得られたことが報告されました。



第2図 報告会の様子